

令和4年度運営方針として



鹿児島県小中学校事務職員研究会
会長 矢島 康宏

新型コロナウイルス感染症は、これまでの大都市中心から地方でのまん延へと状況が変化しており、新規感染者数の高止まりも続いています。こうしたなか、世界的にウイルスとの向き合い方が変化しており、日本でもマスク着用要件が緩和されたところです。ウイルスと上手に付き合いながら、経済活動の拡充を狙ったものですが、教育活動にも新しい生活様式を踏まえながら、弾力的な対応が求められてきます。

働き方改革が叫ばれて久しいなか、文部科学省では、「全国の学校における働き方改革事例集」を改訂し、本年2月に公表しました。「ICTを活用した校務効率化」や「教員業務支援員の有効活用」など150の事例を紹介しています。

また、令和2年7月、文部科学省は事務職員の校務運営参画の拡大を求め、「事務職員の標準的な職務の明確化に係る学校管理規則参考例」を通知しました。こうした事例集や各学校間での事例を共有しながら、今こそ事務職員がそのマネジメント力を発揮すべき時ではないでしょうか。

さて、鹿事研は、「学校の教育目標を実現し、子どもの豊かな学びを支援する学校事務」をテーマに掲げて活動します。このテーマは、本県の教育振興基本計画に示された教育基本目標である「夢や希望を実現し未来を担う鹿児島の人づくり～あしたをひらく心豊かでたくましい人づくり～」を達成するために、事務職員のミッションとして設定しています。

新学習指導要領が始まっていますが、事務職員も「学び」の質が変わっていることをしっかりと認識することが重要です。また、コミュニティ・スクールの導入も加速化しています。こうした学びの質の変化に対応した「カリキュラム・マネジメント」等の研究の歩みをさらに加速させていかなければなりません。会員の一人ひとりが実践者であり研究者であることを意識し、本会の活動を担っていただきたいと思えます。

鹿事研の活動の大きな柱の一つは、各専門部・委員会活動です。研究部をはじめ、広報部、研修部、鹿児島県学校事務の手引編集委員会、OA研究推進委員会は、サポート部員との連携を深めながら、各活動の成果を鹿事研会員へ還元していきます。

二つめは、研究大会の実施です。鹿事研は、研究成果を外部へアピールする場として、また全国的な学校事務に関する情報を提供する場として、さらに会員相互の情報を共有する場として、毎年研究大会を開催してきましたが、新型コロナウイルス感染症対応により2年連続で中止となりました。令和5年1月予定の全国公立小中学校事務研究大会愛媛大会もオンライン開催となり、今年度の研究大会開催も大変厳しい状況が予想されますが、これまでの課題を踏まえ、オンラインも含めた研究大会の可能性を鋭意検討中です。できるだけ早く皆様にお知らせできるよう努めてまいります。

この二つの活動を中心に研究活動を進めてまいりますので、会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、本年度の鹿事研の課題として、以下のように掲げます。

- 1 人材育成プログラムの開発研究
- 2 業務改善とカリキュラム・マネジメントの研究
- 3 鹿児島県版「学校事務のグランドデザイン Ver1.1」の推進
- 4 望ましい「学校事務の共同実施」の模索
- 5 関係団体（県教育委員会、県連合校長協会、日本教育公務員弘済会鹿児島支部、全事研、九州ブロック各県事務研など）との連携